

こどもが まんなか

いわてのWAっこ

ワクワクドキドキ！



ハンカチ上げ



足踏みかけ



すべての子どもたちと学校の
ウェルビーイングの実現
を目指して

いわて幼児教育センター通信

No.3 令和8年9月4日発行

発行・編集

岩手県教育委員会事務局学校教育室
(いわて幼児教育センター)

本通信は岩手県 HP からダウンロードでき
ます

[https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/k
youiku/gakkou/1006358/1058868.html](https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/1006358/1058868.html)

きらきら☆いわてっこ

いわて幼児教育センターの専門員が訪問した園の姿をご紹介します

「遊びは学び 学びは遊び やってみたいが学びの芽」
～遊びのつながいを大切にする環境～

🌸 水、草花、土のわくわく遊び—3歳児—

昨日まで遊びに使っていた草花や、自分たちが作ったごちそうがテラスに置いてありました。前日に休んだ友だちが登園してくると、そのことを知らせたくて駆け寄り、「みてみて、昨日これで遊んだんだよ!」。すると、休んでいた友だちも遊びたい気持ちになったようです。

「今日もよろうね!」という気持ちになる環境があり、使いやすい道具や素材の環境があったことで、この日の遊びが始まりました。子どものわくわく感を高める保育者の環境構成の工夫が、子どもたちの生き生きとした活動を生み出していました。



コップに入れる水の量、花の量は自分たちで調整できるようになっています。

保育者の援助が必要な場面もあるが、子どもの作ったものに、「きれいな色のジュースができたね」と、おだやかに見守りながら共感する言葉かけがすてきでした。



水と土の量を、自分で調整しながら作るうちに、トロトロになりました。
手でベタベタ叩くと気持ちよく、思わず「最高!」と発した子どもの声から満足感が伝わってきました。

③ 環境を通して行う教育及び保育の特質

環境との関わりを深め、園児の学びを可能にするものが、保育教諭等の園児との関わりである。保育教諭等の関わりは、基本的には間接的なものとしつつ、長い目では乳幼児期に園児が学ぶべきことを学ぶことができるように援助していくことが重要である。また、園児の意欲を大事にするには、園児の遊びを大切にして、やってみたいと思えるようにするとともに、試行錯誤を認め、時間を掛けて取り組めるようにすることも大切である。

(幼保連携型認定こども園教育・保育要領 P32 より抜粋)

(幼児教育専門員の目)

一つの遊びに興味や関心をもって夢中になる子どもの姿は、保育者の環境構成や援助の工夫と、子どもの思いが繋がっていることの表れだと思う。

その遊びを十分に楽しめるよう、子どもの自発性を尊重しながらつなげていきたいと願いながら、遊びのゆくえんをていねいに見守っていくことが大事だと感じた。

【研修報告】

7月27日にトーサイクラシックホール岩手において「幼児期からの学びをつなぐ研修会」を実施しました。園や小学校の先生方、行政関係者など、約250名にご参加いただきました。実践発表、シンポジウム、そして講演から、今後の幼小接続のためのヒントをいただくことができました。参加者数からも幼小接続に係る関心の高さが伝わってきました。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。

【主な内容】

- ・実践発表 大槌町教育委員会 照井 善博 指導主事
つつみこども園 佐々木 紗良 保育教諭
吉里吉里保育園 上野 秘 主任保育士
大槌町立吉里吉里小学校 橋本 加奈子 教諭
- ・シンポジウム 大槌町立吉里吉里小学校 橋本 加奈子 教諭
一戸町立一戸小学校 小松 望美 教諭
いちのへじょうものの里こども園 鈴木 優子 園長
- ・講演「子どもも大人も、やってみたい！が生まれる幼小接続」
國學院大學 吉永 安里 教授



・・・・・・・・・・ご参加いただいた皆様のリフレクションシートより・・・・・・・・・・

大槌町と一戸町の実践発表をお聞きし、「子どもも大人もつながることで安心」という言葉がとても響きました。ワークショップや打ち合わせをしてから学校訪問など、園と小学校との距離感が近く、先生同士が話しやすい連携しやすい関係になっているのがとても良いと思いました。園と小学校が相互理解することで、子どもたちが生き生きと活動している姿に感動しました。また、吉永先生の講演会では、世界的に幼小連携が注目されているというお話や、小学生が自分たちで時間割を組み立てるというお話が興味深かったです。今後、幼小連携の際に、小学校の先生方と歩み寄れるよう、園で取り組んでいることの伝え方を意識していきたいと思いました。
(保育士)

教員自身が学び続けることの大切さを改めて感じることができました。幼児期からの学びをつなぐためには、小学校教諭自らが、幼児期にはどんな活動・環境・人間関係の中で育ってきたのかを知ることが重要であり、幼児教育で育まれた資質・能力を小学校で引き出す・生かすことが求められているのだと学びました。今回の協議会を通して、日々の一年生との関わりが、本当に目の前の子どもたちにとってより良い学びを促すものになっているのか見直すきっかけにもなりまし、2学期から取り入れたい実践や子どもたちとの関わり方や向き合い方を改善していこうという気持ちにもなりました。その中でも特に、「自分たちの学びを自分たちで創る」「自分たちで学級・学校を創る」という意識をもち、子どもたちと共に歩んでいく姿勢を忘れないでいようと思いました。
(小学校教諭)

7月から異動になり幼保小を担当することになりました。5歳児担任として、地域の研修には参加したことが何度かありましたが今回のような研修に参加するのは初めてで、参加してみたことで、小学校の先生をはじめ保護者の方、関係機関や地域の方など様々な方々と一緒に学んで行くこと知ってもらうことが大切ということを改めて学びました。まずは自分自身も行政の立場として様々な方と繋がりを広げて行きたいと感じました。そこからさらに実践発表でもあったように、学校の先生が保育所で保育士体験をするなどし、保育士も先生方も学校の先生もお互い学び、気づきが得られる取組ができればと感じました。
(行政担当者)